



高島 幸一  
高島  
取締役社長

## 米国、タイ、日本で “どっぷり”はまる

1枚目は約40年前NYU（ニューヨーク大学）のテニス仲間との写真（前列左端）。ラケットは木製、ウェアもクリス・エバート風のミニスカートやビヨン・ボルグのフィラが流行っていたのを思い出します。テニスには今も“どっぷり”ですが、どの国どの場所でも、その地の熱烈なテニス愛好家と仲間を作り、週1回はテニスをする習慣はこの頃形成されました。大病もせず今まで健康でいられたのもそのおかげと感謝しています。

この頃の私は髭面、普段は花柄シャツにベルボトムとヒッピー系の風貌でした。あのボブ・ディランなどがいたグリニッジビレッジの自由を謳歌する空気に感化されていたようです。無精髭は、大学院の勉強が忙しく髭剃りの時間をセーブすると童顔をごまかすためだったと思います。

前職P&Gへの就職活動とともに即刻、髭を剃り、服装もトラッド系へ宗旨替えしたことは言うまでもありません。

2枚目は約30年前タイ・バンコクの写真館でXmasカード

用の家族写真。知らない人が見たら、ほぼ100%タイ人家族と間違えるのでは。P&Gでタイ赴任2年を成功裏に経過し、生活にも慣れ、タイの祭りやエスニック料理、ビーチの休日を楽しんで大いにエンジョイし、タイ文化・人々の素晴らしさに“どっぷり”はまっていた。

職場はバンコクを中心部から離れたところにあり日本人は私一人だけ。社員はほぼ全員タイ人でしたが、経営陣はイギリス人、ニュージーランド人、フランス人、インド人、シンガポール人、香港系カナダ人そして日本人の私と、まさに多国籍で英語100%の世界に“どっぷり”。この頃グローバル環境で通用する仕事・英語力の向上を大いに実感しました。

どちらも置かれた環境に“どっぷり”はまって楽しむことから、仲間づくりや多様性理解が始まると学んだ懐かしい思い出です。そして20年ほど前からは100年続く老舗企業で、現在も次の100年創りに“どっぷり”。

